

今年は五十五回展を記念して、公募作品と審査員・会友作品を一同に会し、大通美術館で開催しました。会期中二、一七一人の方に見ていただきました。その中から八名の会員の方に感想を寄せていただきました。

自分も参加できた喜び

吉岡 繁夫(苦小牧)

たしか巡回展を何度か拝見させてもらいました。どの作品も質的に程度の高い力作ばかりで感銘を受けました。一番驚いたことは、どれを見てもピントの良いこと、絵になるしつかりした作品だったことが記憶に残っています。また、多くの作品を拝見し、自分の作品がこれが良いのかと反省に立ち悩んだものでした。

今回、第五十五回写真道展という節目に出会うことができ、またこういう所に自分も参加できたということはとても嬉しく喜びでいっぱいです。展覧会が多数の方々に見ていただけたことは、道展に寄せる関心の高さを示しているのではないのでしょうか。

展覧会場での思わぬ出会い

辻川 和夫(帯広)

写真道展の表彰式終了後、写友と共にあの大通美術館へと歩を進めた。珍しく時を忘れ鑑賞に浸りこんだ。その最中見知らぬ鑑賞者の一人が近づいて来られ「写真をやっていたらいい方とお見受けしたので、この作品について評していただけますか」と第三部大賞の「マガン乱舞」の写真の前に誘われました。私の脳裏にはつい先の式場で作者の上田氏の生々しい感動あふれるコメントが充満していたので、うまく伝わったか否かは定かではないが、その方は「二心納得?してくれたと思います。展覧会場での思わぬ出会いのシーンでした。」

会場と作品が溶け合う感動

千葉 弘子(釧路)

大通美術館での展覧会は、会場と作品がとても溶け合うように感動し、小さく震えを感じるほどでした。私は今年と昨年と二回鑑賞させて頂きましたが、今年はゆつくりと拝見し、写真への新たな意欲がわいてきました。審査員会友の皆様の作品はとても参考になりました。

また、一般参加の方々の努力に敬服し、私の力の無さを感じながら釧路に帰宅しました。家族との新しい語りの中で、お母さんも頑張つてと励まされ、この度の展覧会は私にとりまして、とても大きな意義のあるものとなりました。



鑑賞者の反応がじかに伝わって

福田 光男(旭川)

公募作品、審査員・会友の作品をつの会場で見ることができたのは、大変よかったです。写真集と違って迫力があり、見に来てくださった方々の反応を見ながら、自分の思いと照らし合わせて見ることができました。これはこの会場でなければ、なかなか味わえなかったことだと思います。支部長会議が前日だったのもゆつくりできてよかったです。いつもなら何度か足を運ばなければならず、忙しい思いをしていました。役員の方々には大変お手数をかけますが、できれば来年もこのような形で開催していただければありがたいです。

活気に満ちていた会場

飯田 淑子(札幌)

努力の結晶である会場は、活気に満ちておりました。写真のテクニクや色彩に目を留めながら一巡。デジタルカメラの普及より、デジタル化された作品もごく自然に受け入れられるようになったのは、やはり急速な時の流れでしょうか。色の自在なコントロールは挑戦してみたい分野です。その一方で、モノクロの健在さを感じました。一部二席の爽やかな「夏の日」や、又モノクロならではの安心して見られた「私の母95歳」など、それぞれの作品作りの意気込みが伝わってくる写真展でした。

語りかけてくる作品

裏 征子(札幌)

会場に入ったとたん、どーん!と何か響いてきた。会場を包み込んで見えない塊。深呼吸をし一礼をして順に拝見する。見えない何かから発せられる光は、キラキラ輝き、作品の一点を照らしている。生き生きとした作品が次から次へと語りかけてくる。何度拝見しても時間が足りない。カメラという媒体を通して表現されるその思考の柔軟さ、対象への視線の多様さに大きな刺激をいただいた。審査員会友の作品が展示されている隣室は、そこはもう別世界。はるかな世界!同時に鑑賞させて頂ける幸せを思う。撮らずにいられない心の昂りはフラインガーを覗く間も惜しく撮り歩いた帰り道。目に映る何もかもが新鮮だった。

レベルの高い個性豊かな作品

吉仲 功(帯広)

写真は「時間を止める光の芸術」と言われます。今年審査員会友の作品も同会場に展示され、レベルの高い個性豊かな作品を鑑賞できたことを大変嬉しく思います。



大通美術館展示会場

見応えのあった公募作品

松山 浩司(函館)

今回は審査員や会友の作品との合同展でしたが、特に一般公募の作品には、大変見応えのあるものが多かったと思います。作品集などに掲載されたものでなく、実際に四つ切の大きさに展示されたものを見て、写真と言うのは、引き伸ばすことによつて、新たなイメージの発見があるものだと、改めて実感しました。色合いや光の捉え方など、じかにみることによつて細部にわたる作者の思いが見るものに伝わってくる、とても素晴らしい作品に出会うことができました。

研ぎ澄まされた感性と絶妙なシャッターチャンス；現場の情景や作者の息遣いも伝わってくるような気迫さえ感じました。私も道写協支部の一員として、今後とも沢山の仲間と作品作りを楽しみ、感動の一作を求め続ける思いを新たにしているところです。